

玉野市立学校適正規模化地域説明会（玉中学校区） 会議録（要旨）

- 日 時 令和4年7月29日（金）19:00～20:30
- 場 所 すこやかセンター やまももホール
- 出席者 妹尾教育長、小崎次長、山内教育総務課長、的場学校教育課長
- 参加者 12名（地域8 保護者4）R4.9.6人数訂正

1 開会

教育長あいさつ

2 説明

これから玉野市の課題と、「こういう目的を持って適正規模化を進めるならこういう統合パターンが考えられる」というシミュレーションの内容を説明する。

現在は適正規模化について、第三者委員会である適正規模・適正配置検討委員会に諮問している段階で、玉野市立学校適正規模化計画は、検討委員会から出される答申を元に、令和6年3月頃を目処に策定したいと考えている。

したがって、現時点で学校の統廃合の具体的な計画はない。

本日は、何かを決定するというものではなく、今後検討委員会で協議を進めるにあたり、適正規模化に対する地域の思いや考え方を伺う会とご理解いただきたい。

（資料に沿って教育総務課長説明）

3 意見交換

教総課長：意見を伺う前に、ここまでの説明で分かりにくかった点、疑問に思う点などあればご質問いただきたい。

参加者1：ここに検討委員会の委員は来ているか。来ているのなら誰か。

教総課長：この場に3名いる。

参加者1：私たちの意見がちゃんと反映されるかという心配がある。

教総課長：各地区でどのような議論がなされているか、都合がつけばぜひ聞いてほしいと参加をお願いしている。

参加者1：今日は説明会だが、策定までの流れの中で、保護者や教員、地域の人たちとの話し合いの場が設定されていないように思う。今後そのような会はないのか。

教総課長：この地域説明会とアンケートで、考えや思いを集約したいと考えている。それを取りまとめて、検討委員会の中で検討して、答申をいただく。次にご意見をいただくタイミングはパブリックコメント…

参加者1：パブリックコメントでは遅い。

教総課長：案を策定する前に、いま事前に回っている。そのご意見を答申、最初の案に盛り込んでいく、そういう考え方で進めている。

参加者1：少ない人数の意見しか今日はない。

教総課長：それも踏まえてアンケート、先ほど8千人規模と説明したが…

参加者1：アンケートも、玉小はどこも統廃合するなど具体的なことが書いていけば真剣に考えると思うが、保護者アンケートの「どのくらいの規模のクラス数が適正だと思

うか」のような内容だと、これくらいが良いなという感じで書く訳であって、自分の子が通っている学校が困るとか、困らないとか、それは反映されないと思う。

今日のような説明を、できれば学校に出向いてでも保護者のみなさんには知ってもらって、そのうえで意見を出してもらわないと、本当の意見じゃないと思う。合意の下に進めるためには話し合いが必要と思うので、話し合いの場を設けるように考えてほしい。

教総課長：仮にそういった場を設けるとして、どれくらいのタイミングが適切と思うか。

参加者1：検討委員会の方々にしっかり聞いてもらわないと、少ない委員の趣味嗜好で決められたらとんでもない。やはり住民や保護者や子どもたちの意見をしっかり汲んで答申を出してほしい。自分が検討委員であれば、自分が出向いて「みんなどう思いますか」と聞く。

教総課長：ありがとうございます。

参加者2：切磋琢磨の意味を教えてください。

教総課長：互いに認め合いながら、相手よりも頑張ろうという気持ちを持ち、より高め合っていく、そういうものと考えている。

参加者2：同じくらいの力を持った人たちが集まって、意見や考えを出し合って互いに高めていく。もう一つの意味は努力に努力を重ねて高まるという個人の意味もあるが、今の公立の小中学校の教室で、人数が増えたところで同じレベルのことを一緒にできることばかりではないと思う。個人の能力の差が結構大きいので、1時間の授業の中でも先生は工夫してこっちの子にはこう、こっちの子にはこうとやっていると思うが、そのような中で切磋琢磨して高めていくのはどのような場面かと思う。例えば田井小学校や荘内小学校の切磋琢磨の場面とは、どのような場面か。

教総課長：具体的にこうというものではなくて、勉強でも運動でも、あの子より頑張りたいな、あの子凄いな、あの子より上手になりたいなということを考えて、自分を高めていくには、いろんな個性を持った子がたくさんいた方が、そういう状況になりやすいと思う。そういうことだと思う。

参加者3：適正規模という考え方に非常に疑問がある。切磋琢磨というのは、結局競争ではないのか。子どもたちがお互いに競争する中で伸び合うという考え方ではないのか。

ところが今まであった競争のやり方というのが、確かに勝っていった子はいるかも知れないが、こぼれた子がたくさんいる。それで自信を無くしたり、非行に走ったり、いじめに走ったり、という問題が今までたくさんあったと思う。だから切磋琢磨といえいかにもいい言葉のように聞こえるけれども、それは大変問題のある教育方法だと私は思う。

では勝っていけば良い思いをするのかというと、代表的なのは受験競争だが、勝っていった、いい大学に行った学生たちがどうするのかというと、学習から解放されて喜んで遊ぶ。その姿が大きい。だから、切磋琢磨して競争して、それが学習する、伸びるといったことに繋がるか非常に疑問だ。私はそうではない教育を目指さなければならないと言いたい。では適正規模とは何か。結論から言うと、私は小規模だと思う。だから何か小規模が悪いように捉えて、適正規模は一定以上の数を揃えようという動きだと思うので、非常に問題だと思う。

多様性とは何か。人数がいたら多様なのか。私は違うと思う。例えば今の学校の

様子を見ると、人数がいたら多様な意見が出てくるなんて、そんなはずがない。たくさん集まれば集まるほど、一人ひとりの子どもが言うのをやめる。それが今の姿ではないか。例えばたくさんの中で、自分の意見を言うのは大変な抵抗だ。そうではなくて、小規模で一人ひとりが大事にされて、みんな違っていいんだよという中で、「どう思う？」と言われれば言える。

競争というのは一つの価値だ。競争には何かの価値が基準にあって、一生懸命それに対して切磋琢磨していく。それは一つの基準で多様性とはまったく逆のことだ。多様性とは一つの基準ではなくて、こんな人間がいたり、こんな個性があったりということの多様性で、そうすると、いわゆる競争というのは通用しない。だから小規模の学校ほど、この子はこんな特色があるんだな、こんな個性があるんだな、能力についてもこんな得意なところもあるが、これは苦手だよなというような中で、一人ひとりの多様性を見て、教育をしていくのだと思う。それで個性を認められる子どもとして伸びていくのだと思う。

勉強についてもよく見てくれるから、自分はこれだけしかできないけど、これだけしたら「ようやったね」と褒めてくれる。でも、多数の中で基準があって、ここから上は凄い、ここから下は頑張れという中では、勉強も嫌いになる。

だから小規模校ほど可能性がある。だから、小規模校で人数が少ないのはまずいという考え方自体がおかしいと思う。

適正という言葉はごまかしではないだろうか。小規模校で少人数であっても、そこに本当の教育ができる可能性があるのではないか。適正規模で一定人数という考え方を、それを正しいものとするところから考え直してほしい。

参加者 1：学童保育は凄い人数だが、統合された場合どうなるか。また、不登校の子がスクールバスに乗り遅れたらもう学校に行けない。今は多くのボランティアが寄り添っているが、学区が広がったらどうしていくのか。特別支援学級もどうなるかなど心配事が尽きない。

今日の話では地域のことに一言も触れていない。昔は奥玉小学校で盆踊りがあった、そこに子どもからお年寄りまでみんなが集まっていた。小学校区というのは、地域の自治する力が及ぶ、とてもいい範囲、距離感だと思うが、そこから学校がなくなることの地域に及ぼす影響をちゃんと考えているのか。

もう一つは、子どもが減ることを前提のように言っているが、今後玉野で子どもを育てようと思ってもらえるような取組の一つも考えていないのか。どんどん保育園などが無くなって行って、若い人は安心して子どもを産めないと思う。

教総課長：放課後児童クラブは、統合した学校に置くことになると思う。あるいは、今の小学校の放課後児童クラブをそのまま残して、そこまではいったん帰るというやり方も考えられる。現時点で何も決まっていないが、そういうやり方も考えられる。

特別支援学級についても同様で、統合後の学校での対象者数によって支援学級の数が決まると考えている。

地域については、(今日の会では)地域の皆さんからいま言われたようなご意見をいただきましたかった。

人口増は玉野市全体で取り組むことなので、教育委員会で具体的に何かということではないが、例えば、移住希望者に対する案内であったり、結婚の支援であったり

り、その後の子育ての支援であったりなど、玉野市として施策が無いわけではない。

その一方で、子どもが減り続けている現状は間違いなくある。人口増に取り組んでいるから対策しなくてよいということにはならないのではないか。仮に具体的な統合案ができたとしても、年を決めて進めるのではなくて、それまでに「児童数がこうなったら協議を進める」という考え方もできると思う。そういう部分も検討委員会で議論いただきたいと考えている。

教総課長：質問はいったん区切る。次に伺いたいのは適正規模化そのものに対する考え、賛成反対、分かるけど反対、反対の気持ちが強いが仕方がない、いろいろあるかと思うが、そういった適正規模化そのものに対するご意見をいただきたい。

参加者4：私の子は小規模の中学校に通っている。小規模のメリットは分かるが、学校は勉強だけではないと思っていて、友達づくりもすごく大切なことだ。小規模校だと、小学校は6年間ずっと同じクラスで、仲の悪い子はずっと仲が悪い。もう何のメリットもないと思う。

中学校では人数が少ないと部活動ができない。昔はいろんな部活動がどの学校にもあったが、子が通う中学校にはほとんどない。民間の講師を招くにもお金がかかる。運動を本気でしたい子はクラブチームなりに行けばいいと思うが、いろいろ考えると、少しでも早く統合してもらって、子どもたちを毎年のようにクラス替えがあって、仲のいい友達もどんどん変わって（という環境に置いてやりたい）。

子どもを第一に考えたからこの適正規模案が出てきたと思う。地域の方にはいつも見守り等感謝しているが、いまは地域ではなくて、子どものことを考えれば、私は、地域は後回しでいいと思う。

参加者5：私は中学校の教員だったが、東兎、山田、荘内、宇野と、小規模大規模すべて経験している。

小規模の中学校は各学年1クラスと特別支援学級の計4クラスで、(管理職を含めて)常勤の先生を7人しか配置できない。7人で9教科、技術家庭も入れれば10教科、(校長は授業を持ってないので)4教科で先生がいない状況となり、週1回の非常勤を頼むしかない。

そうすると、例えば合唱コンクールで、宇野中や荘内中は音楽の先生にピアノの指導、合唱の指導をしてもらえるが、小規模校は先生が週1回しか来られないので、子どもたちだけでやることになって成果に差が出てくる。学校祭で何かを作るにしても、今日は美術の先生がいない、家庭科の先生もいないということが起きてしまう。小規模の良さもちろんあって、どちらかが100%良いということは絶対にないと思うが、大規模校の子とは大分違う部分がある。

もう一つは、例えば、小規模校には国語の先生が一人しかおらず、1年から3年までの教科書の準備をする。これは教員にとってものすごい負担となる。ところが宇野、荘内では、一学年の授業準備を深めてることができる。しかも授業で出た多様な意見を、いろいろなところで紹介できる。また、国語の先生が複数いれば、互いに研修ができて深まる。先生はみな頑張っているが、同じ労力でも3つ見るか、1つを深めていくかではものすごい差が出る。小学校とは違うと思うが、そういう意味でも、ある程度の規模がないと教員のほうがしんどい。

日比中学校は吹奏楽部が全国大会に出るようなレベルだが、今年は音楽の先生がいない。小規模化すると定数の問題でどうしようもない。週1回しかない授業、美術や音楽、家庭科、技術は、どうしても非常勤になってしまう。

小規模と大きい学校との指導体制の差がすごく出ている。若い先生が多い中で、やはり人数が多いと色々な意見が出て、自分と比べてどうなのかとできる。一人一人を大切にしようとか、個別最適化の考え方とか、誰一人取り残さないという文科省の大きな目標の中で、多種多様な意見を吸収して育っていく、そのために適正な規模がいるという、子どもが育つための適正規模化、というふうに思う。

もう一つだけ。宇野中に入学してくるのは、宇野、築港、田井の3小学校だけと思われがちだが、私がいた時は最大で10校だった。例えば、部活がない、女の子が2、3人しかいなくてどうしても上手くいかない、だから大きいところでやりたい。毎年8校から10校の小学校から宇野中に入る。今日ミネルバで勉強したいと言って来た中学生は、自分も姉も宇野中に通っているとのことだった。大きい学校に行くと、いろいろ刺激を受けたいと。部活動の種類など、恵まれた環境の中でやろうと思ったら、もう自主的に動いている子も実体としてはあるのではないかと思う。

参加者1：教育学では、学校規模と教育的効果に相関関係はないと言われていて、先ほどから複式がさも悪いように言っているのがすごく気になる。

いま学校では、学力向上、学力向上とすごく言われていて、昔はもっと子どもたちがのびのびとする時間があったのに、今はどうすれば理科ができるようになるか、どうすれば算数ができるようになるかと子どもたちも大変だ。学力トップのフィンランドの学校は、ほとんどが100人程度の規模で玉野と同じくらいだが、十分な人数がいてもあえて複式にしている。2年生の子が1年生に教えたり、ある学校はその日の日程を子どもに組ませたりするらしい。

日本は学力をつけさせるために、音楽会なんかに時間を割いてられない、簡単にしてしまおうといった感じだが、学力が高いフィンランドでは、人間関係作りとか、時間をどう過ごすかを考えさせることが学力を伸ばすという考えがあるらしく、ちゃんと結果をつけている。複式にはそんな無限の可能性があると思った。

それから、スクールバスというが、徒歩通学は、横断歩道を渡ったり、道端の草を見たり、地域の人と挨拶したり、子どもの人間形成にすごく大事ではないかと思っている。先生は今でも登下校に気を使っているが、遠くなると先生はどうするのかと心配だ。

それから、玉野市はいち早く35人学級を導入したり、図書司書を各校に一人配置したりしたのも全県でトップだったと思う。後閑小が複式になりそうなときに、人員を配置して複式を解消してくれるなど、玉野市は人口が少なくてもそんなにお金はないかもしれないが、教育に、地味ではあるが力をかけてくれて、外では「すごい玉野」とずっと言われてきた。だから、子どもが減るから切るのではなくて、減って困る子どもたちに、こういうことがしてあげれるという考えで行ってほしい。

中学校と小学校をひと纏めにして決めていくということの無理も感じている。また、何度も言うが、検討委員会の方々にしっかり民意が反映されるように、意見を聞く機会を作ってほしいのと、決定するまでもっと話し合いの場を作ってほしい。

参加者6：玉小学校に子どもが増えて、奥玉小学校がここにできた。その奥玉小学校も人数が増えて、次に玉原小学校ができた。

現在はその全く逆のような状況に置かれている。少子高齢化でだんだんと子どもが少なくなっていくと、今日の話にもあるように、集約的に判断していくことに落ち着くのではないかと思う。

これは教育委員会の学校の問題だけではなく、政治の問題だ。学校の適正な規模、配置、登下校の距離、そうしたものは子どもの状況によって変わってくると感じていて、これは仕方のないことだ。

奥玉小学校が玉小学校と合併するとき、大変な話題というか課題になって、多くの地域の方が、当然父兄の方が大勢だが、侃々諤々議論した。今後はもう少し幅広く、地区単位は難しいと思うが、学校のPTAの中とか、学年懇談会の中とか、そういった場で十分に説明して、一人でも多くの人の理解を深めていくことが大切と思う。

参加者2：一人でも多くの理解をとというのは、私たちも願っていることだ。

先ほど中学校の話があったように、中学校は先生が足りない、小学校も足りているわけではないと思うが、校長先生方が市長にお願いに行った記事を見て、中学校はどうなっているのかと驚いた。小さい学校はちゃんと勉強ができていないのかと思った。人が増えれば解消することが多くあるが、それができない現状なのだろう。中学校はどうなるかと心配になった。

中学校と小学校は議論が変わってくると思われ、一緒に話をするのはちょっと無理ではないかと今の話を聞いて思った。徒歩通学と自転車通学とだけでも大きく違うので、こういう話し合いを持ってはいるが、小中分けて考えると、思いがいっぱい出せて、盛り上がるのではと思う。いろいろ考えることがありすぎて、まとまらなくなるので、分けて考えていけたらいいと思い。

参加者5：中高の話になる。いま一番少ない中学校の1学年は十数人だと思うが、高校に行くと少ない学校でも1学年160だ。岡山に行けば300人ほどで、10倍から20倍、この人数をいきなり目の当たりにしてその集団に入るには、なじめる子もいるが、なかなかストレスが激しいというのはよく聞く。

高校の校長先生と話をする中で、小規模から来た子は、長い間この子はこうと理解をされて、少々何かあっても許してもらえていて、それが良さだと思うが、いきなり10倍以上の集団の中で、自分の我儘がどうしても通らないから、不適應を起こしていることが多いという話があって、中の高との接続の部分も見ていかないといけない。私たちの思いもあるが中心は子どもなので、小規模から行った子どもたちは結構ストレスを抱えて、大規模に慣れている学校の子よりしんどい思いをしているのは確かだ。

それと教育委員会には叱られるかもしれないが、ALTは（県内）どこの学校も一人配置しているはずだ。玉野はいまゼロという大変な事態で、英語教育は大丈夫かと思う。これは何としても財源を確保して、各校一人とまでは言わないが、回復しないといけないと思う。総社などは英語特区にして、玉野市もうちもスケジュールガイドで頑張ってくれているが、施設だけではない財源の部分の補い方は、大きな課題として残っていると思う。

参加者7：私自身は、子どもが減るので仕方がない部分はあると思う。

学校の環境維持は、ほぼボランティアというか地域の人のだ。その仕組みをきちんと作ってもらわないと、統合して、統合前と同じ程度でいいのでやってくださいとなっても、例えば草抜き一つ取っても、皆が集まらないとできないような状態で、道具も学校には無くて、皆さんにお願いしていることがある。

草抜きに限らず、何か壊れていても、危ないけどなかなか直らない。という状況が、統合して大きくなっても似たようなことになりそうで怖い。4つ集まって予算が4倍になるのならよいが、間違いなく、それは考えにくい。そういうところもちゃんとしてもらいたい。

あと、みなさん言われていたが、地域にも、保護者にも、ちゃんと説明がないといけない。プリント一枚では無理だ。皆が皆理解しているわけではない。今日の会にしても、パソコンのない家、ネットのない家は、市からのそういう宣伝が見えない。広報たまの何人見ているか。本当に親が全員見ているか。それはあなたたちの自由だという訳にはいかないと思う。だからこそ、学校を通じてちゃんと分かるような何かを、保護者に説明してほしいと思う。そのくらいまでやって初めて、皆がちゃんとした意見が言えるのではないかと思う。

あとは、統廃合後の施設がどうなるか。旧玉幼稚園はようやくシルバーが入ったが、まったく使えない状態のものが残ってしまうのは考え物だ。だから並行して考えてもらって、そこも踏まえた何らかの説明も欲しいと思う。そこまで全部できて初めて意見も言えそうに思う。まだちょっと、目標が見えないようなイメージで見ている。

参加者4：私も、今日の集まりのことを、先日の日比中学校の会を伝える新聞記事で知った。

これからまた5会場であるようなので、できるだけ保護者の方に会に参加してもらった方がより良いと思う。中学校は子が卒業した後のことになってしまうので、いま小学校、園に通っている保護者にも積極的に声をかけて、保護者がちゃんと話を聞ける、意見を言えるような場を設けてもらえればと思う。

参加者3：適正化のもう一つの大きな目的がお金だと思う。お金ではないと言っていたが、大きなものとしてバックにあると私は思っている。

市長にもお願いだが、児童の教育にお金を使ってほしい。例えば明石市は、市長が「子どもが宝」ということで、子どものための予算を増やして、いいと思えば国がやる前に市で取り入れているようだ。お母さん方もあそこへ行ったらいいと思うようで、人口が増え、結果的に税収も増えという形になっている。

市長が一番大事に考えているのは子どもへの投資で、結果、市の発展が起きているということなので、ぜひとも子どもに予算を使ってほしい。

日本の教育費は世界的にも少ないと言われる中で、ぜひとも玉野市もそちらに力を入れて、魅力ある所にするようになってほしい。